

えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



10月18日(金) 救援会神奈川 田戸俊秀さん
勉強不足を痛感

10月18日、数年ぶりに面会したが、大助さんは相変わらず元気ではつつとしていた。

最初に、お母様から頼まれていた実家の鹿島台の台風被害状況を報告し、その後彼が逮捕された経緯、特にA子ちゃんの急変以降(逮捕2か月前)、逮捕までの経緯を聞いた。そうすると彼は文字通り立て板に水で、当時の状況や病院や警察の対応のおかしさを語り、裁判に出された証拠の多くが、後付けで裁判用に作られたものであることを話してくれた。

そして、それらは一審の最終弁論に詳しく書かれているからそれを読んで欲しいとのことで、私の勉強不足を痛感させられた。

検察の主張や判決は、「急変患者多発で、いずれも点滴の後に呼吸停止から始まって、その点滴に大助さんが関わっていることから大助さんを疑った」との図式になっているが、当時病院は大助さんを疑っていなかったとのこと。

そして半田郁子医師がA子ちゃんの急変は自分のミスだと思い込みノイローゼ気味になっており、その解決の為に大助さんを犯人に仕立て上げたのだとのこと。

私が今まで理解していたことと随分異なることが多く、改めて一審の最終弁論を読み直すことにした。

11月15日最高裁は再審棄却する 大助さんに激励のハガキを!



えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行うが2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。



11月12日の第4回北陵クリニック事件最高裁独自要請は徳島、会津、宮城、茨城、千葉、神奈川、東京、栃木、三多摩の会、守祐子さん、救援会中央で行いました。累計41566筆

10月現在面会数440回、面会者は延べ1004名

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2019年 135号

● 12月の面会日は上旬にお知らせします。お問い合わせは救援会神奈川県本部へ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

面会感想にご協力をください。千葉県本部へ E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

10月7日（月）ご両親

朝一番での面会、ここ数か月待合室の顔ぶれが一緒の方々が多い。理由を聞くわけでもなく、同じ思いで面会に来ているのかとなんとなく挨拶、世間話で済まして時間を過ごしていると待ち時間も気にならない。いつものように笑顔で入ってきてお互いに体調を確認。前日千葉県本部50周年レセプションに招かれ約100名、他県の代表の方も見え多くの方々と挨拶することが出来た。大助が千葉に来たのが08年7月9日なので約11年、人生の約5分の1お世話になっていることになり感謝で一杯です。

前回の宮城の街頭宣伝の際に、一緒に働いていた看護師さんが声を掛けてくれ大助のことで警察から事情聴取された際、守君は決して仕事を押し付けたりしたことが一切なく先輩達は弟のように接していたと話したら、警察官が嫌な顔をしていたのでこれはおかしいと思っていました、と話しながら今後の協力を約束、署名をしてくれたとを伝えたら喜んでおりました。年月が過ぎると忘れ去れるどころか元同僚でしたという方々の声掛けが多くなってきたことに勇気をいただいています。守る会などの総会の季節で挨拶のメッセージを出すのに月7通しか出せないで四苦八苦しているようでした。



10月28日（月）金木照美さん（神奈川）

運よく晴天に恵まれて、80歳以上3人組で心は大助さん支援に熱く燃え、念願の面会をしました。

大助さんは明るい笑顔で30分間フルに話しました。健康状態は、食欲もあり、眠れるが昨年からは花粉症となり、今年はひどくなってしまった。

台風被害のことを心配し、各地、故郷もひどく案じていました。作業ローテーションがあり、慣れていくと楽しみも出てくる。

午前中の下処理が戦争で、この間140キロのキャベツを刻んだそうです。甘党の大助さん、月2回、1回500円以内で決まった日にあんこ類の和菓子を買うこともあるそうです。少しは息抜きになるといいますが、冬に向かい11月～2月まで、ホカロンを月30個使えるので残さずうまく使う。やはり自費で。

支援者の通信は励みになり嬉しいとのこと、1日4、5通もらっているそうです。皆さん「継続は力なり」ジャンジャンだしていきましょう。返信は難しいですが、最後に先輩が「大助さん、私たちにどうしてもらいたいか希望ありますか」と聞くと「皆さん長生きしてください」と、3人で涙ぐみました。体を大切に「再審が早く動き出し、無罪判決」まで生きていこう、と心にきめました。

10月28日（月）添田美智子さん

3人で面会しました。私は差し入れのことを、待ち時間に、「これから冬に向かって寒くなるので少しでも暖かい下着を入れてはどうかしら」他の人は「冬は特に手があるのハンドクリームが必要ではないかしら」「その他必要なものは大助さんに聞いてみましょう。そして費用は3人で割り勘にしましょう」ということで話が纏まりました。

そして面会、いつもの様に爽やかな笑顔で出迎えてくれた大助さんとお互いの近況報告と3人で打ち合わせていた差し入れのことを話しました。しかし、大助さんは遠慮勝ちでした。私が「心配ないよ、みんな金持ちだから」というと大笑いでした。

そして何点かの差し入れの品を伺いました。最後に伊藤さんが「今、私たちに何をしてもらいたいですか」と尋ねると「皆さん元気で長生きしてください」と答えられました。

大助さんが一日も早くご両親の元に帰れるために、「その日まで元気で長生きしよう」との思いを強く刑務所を後にしました。

差し入れは3人で現金、週刊誌、日用品と支援者からのカンパを届けました。



ご高齢で大助さんから「元気で長生きしてください」と激励を受けた。神奈川と千葉の支援者